

## アイヌタイムズ 第51号 日本語版

---

---

---

### ★ 第72回北海道エスペラント大会

2008年9月13日(土)に札幌で第72回北海道エスペラント大会が開かれました。2008年に、「国際言語年」、「アイヌ先住民決議」があったので、私たちはアイヌ語ペンクラブ会長・野本久栄さんを招待しました。野本さんはアイヌ文化について講演をして(いわれ話を語って)くれました。

まず最初に、北海道エスペラント連盟の星

田委員長が次のように言いました；昔、自分のことばを大事にして、外国人と話すために誰にでもわかりやすいことばを作ろうとした国際語運動というものがありました。その中で130年使われていることばは、エスペラントしかありません。私たちはそれを広めようとしています。

エスペラントを使う人が、どういうことをしているかということを書かれている文章が

あります。それはプラハ宣言と言われるものです。

(参考：プラハ宣言アイヌ語訳：<http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/AinaManifestoDePrago.htm>)

その中の第5章には、どんな人も大切にされるべきであるというのと同じように、色々なことばも大切にされるべきであると書かれています。(元文：第5章には、人権という点では平等であるというのと同じように、ことばについても平等であると書かれています。)これは「言語上の権利」と言われるものです。その中の第6章には、人間の持っていることばはたくさんあり、色々なことばは一つずつ宝のようなもので、全て大切にすべきものであると私たちは考えます、と書かれています。(元文：第6章には、言語の多様性があると書かれています。人間の持っている表現の多様性は、人類にとっては宝であると考えています。)これは「言語の多様性」と言われるものです。明治時代から、差別を受けたアイヌ語、アイヌ文化があります。これは、先ほどの「言語上の権利」、「言語の多様性」を守る上でも、平等にしなければなりません。

そういうことは、エスペランチストの多く

が考えており、「国際言語年」、「アイヌ先住民決議」があったので、野本さんにお話ししてもらおうことになりました。

そして、野本会長は次のように言いました；「1951年に白老で生まれ、35歳から民族問題に関わるようになりました。『私はアイヌだ。』と名乗る人は、今でも少ないが、誰かがやらねばならぬと思い、アイヌの文化・伝統・儀式を教え、アイヌタイムズを作っています。」

その後、カムイノミの話をはじめ、鮭を獲るときに使う使う道具の話(マレクの話)、ムックリの話やアイヌ語の地名の話など、幅広くアイヌ文化について話していただきました。また、参加者にアイヌの衣装を着せて、各箇所の説明をしてくれました。好評でした。

最後に「天から役目なしに降ろされたものは一つもない。」の意味を教えてくださいました。参加者の多くが感銘したようです。

この講演の話は、インターネットにも書かれています。

<http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/kongrej/72kon-j08.htm>

[横山 裕之] 沙流・千歳